様式１－３（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物 ブロッコリー（秋冬どり）栽培暦（令和7年度）

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1．土づくり
・エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする
・完熟堆肥2トン／10aを施用する

2．施肥　☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 **化学肥料窒素成分使用量14．5kg／10a以下**
基肥・追肥は①．②のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①ちばみどり有機888（8-8-8 有機態窒素 1.2）	140kg／10a以下
	②エコレット866（8-6-6 有機態窒素4.1）	180kg／10a以下
	苦土石灰	60kg／10a
追肥	①ちばみどり有機888（8-8-8 有機態窒素 1.2）	60kg／10a
	②エコレット866（8-6-6 有機態窒素4.1）	90kg／10a

3．防除 **化学合成農薬　6成分回数まで（苗購入の場合5成分回数まで）**
（スピノエース顆粒水和剤・ゼンターリ顆粒水和剤・Zボルドー・カスミンボルドーは化学合成農薬に含めない）
（オキソリニック酸を含む農薬(スターナ水和剤・ナレート水和剤)の総使用回数は合計2回まで）
（ナレート水和剤は2剤カウントなので注意する）

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈 倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施
7月下旬～	は種	（ネキリムシ）（ハイマダラノメイガ・ヨトウムシ）（アブラムシ・コナガ）（べと病・軟腐病）（黒腐病）	①ネビジン粉剤又は ネビリュウ	20～30kg/10a播種又は定植前全面土壌混和 20kg/10a播種又は定植前作条土壌混和	1回	根こぶ病	害虫の発生量を減らす為、圃場周辺の除草をする 黒すす病発生時 パレード20フロアブル 2000～4000倍(収穫前日・3回) ケンジャフロアブル 1500倍(収穫前日・3回)
8月上旬～			②ランマンフロアブル	500倍（定植前日～当日使用方法 灌注）	1回	根こぶ病	
9月上旬	定植		③フォース粒剤	4kg/10a（定植時）	1回	ネキリムシ類	
中旬			④ハチハチ乳剤	1000～2000倍（収穫7日前）	2回	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｱｵﾑｼ ｺﾅｶﾞ	バリダシン液剤5 800倍(収穫前日・3回) べと病発生時 アミスター20フロアブル 2000倍（収穫3日前・3回）
下旬			⑤コルト顆粒水和剤	4000倍（収穫前日）	3回	アブラムシ類	ｺﾅｶﾞ・ﾖﾄｳﾑｼ多発時 アファーム乳剤 1000～2000倍 (収穫3日前・3回)
10月上旬	追肥		⑥コテツフロアブル	2000倍（収穫3日前）	2回	アオムシ コナガ ヨトウムシ	
中旬			⑦プレバソンフロアブル5	2000倍（収穫前日）	3回	アオムシ コナガ	ディアナSC 2500～5000倍 （収穫前日・2回）
下旬			⑧スターナ水和剤	2000倍（収穫14日前）	2回	軟腐病	グレーシア乳剤 2000～3000倍 （収穫7日前・2回）
			⑨⑩ナレート水和剤＊2剤カウント	1000倍（収穫14日前）			ベネビアOD 2000～4000倍 (収穫前日・3回)
11月上旬	収穫		⑪フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍（収穫前日）	2回	ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ﾖﾄｳﾑｼ	ブロフレアSC 2000～4000倍 (収穫前日・3回)
中旬			★ 化学合成農薬に含めない農薬				
下旬			スピノエース顆粒水和剤	5000倍（収穫3日前迄）	3回	アオムシ コナガ	ｺﾅｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ多発時 プレオﾌﾛｱﾌﾞﾙ 1000倍(収穫7日前・2回)
12月上旬			ゼンターリ顆粒水和剤	1000～2000倍（収穫前日迄）	—		
中旬			Zボルドー	500倍	—	花蕾腐敗病	
下旬			カスミンボルドー	1000倍(収穫7日前)	4回	黒腐病	

☆みんなで守ろう生産基準